

中部地区医師会立 ぐしかわ看護専門学校  
情報提供等への取り組みに関するガイドラインの項目と取り組み

1. 学校の概要、目標及び計画

＜学校の教育理念及び目標、特色＞

ぐしかわ看護専門学校の教育理念は、生命の尊厳(命どう宝)を基盤とする豊かな人間性を養い、すべての人々の健康と幸福のために行動する能力を培い、地域医療に貢献できるとともに国際社会の諸活動へも積極的に参加する姿勢を持って、看護の発展に寄与する人材を育成することです。

教育目標は、①倫理観を備えた態度、②個別的な存在としての人間の理解、③人々の健康と環境の相互作用、④科学的根拠に基づく看護実践能力、⑤社会資源活用の支援、⑥変化する社会への関心と自己啓発としている。

学校の教育理念及び教育目標は、建学の精神である沖縄の博愛精神(イチャリバチョデー)、互助精神(ユイマール)を受け継ぎ、その精神は教育課程にも反映させている。

一人ひとりを支援する学年担当制

一学年3人の教員それぞれが学生を担当し、個別指導に力を入れることができます。授業は対面とオンラインを併用し、学習の質を保証しています。学習支援システムCラーニングを導入により、担当教員と学生との連絡・相談、学生全体への連絡、ニュース等をタイムリーに提供することができている。授業は、学習支援システムを活用し、学生の主体的な学びを育くみ、グループ学習を通して常に相手の立場に立ってものごとを考え、どう行動したら良いのか判断できる力を養う。

学科・実習ともに充実した学習環境

緑豊かな自然環境の中で駐車台数280台を有する広大な敷地や食堂、講堂、図書室、看護スキルラボ室、セミナー室等を設け、学生がのびのびと明るい学校生活ができるよう学習環境を整えている。学校内のWi-Fi環境を整備し、ICTを活用した授業や臨地に近い学内実習の創意工夫、シミュレーションなど取り入れ、学生の学びを支援している。

万全の国家試験受験対策

国家資格の取得には、必ず受験対策が必要になります。看護師合格のために模擬試験や国家試験対策講義を徹底して行う。国家試験1ヶ月前には、学力別、領域別講義など、全教員が総力で対策を集中して行う。令和5年度は合格率93.6%である。

自律した社会人育成

看護師は、専門的知識だけでなく変化する社会状況に対応し得る豊かな人間性、高い倫理観を備えることが求められる。社会人にふさわしい社会的な行動様式は、日常的な取り組みによってはじめて身につけ、挨拶を励行し、服装・身なりの指導、時間や提出期限の厳守等の指導の徹底、意識的な3密の回避、新しい生活様式など感染防止対策を実践し、感染対策行動を身につける。

地域貢献・開かれた学校づくり

ぐしかわ看護専門学校では、看護の専門知識・技術を身につけるだけでなく、学校全体で取り組む学校行事も満載、学生会や実行委員の学生中心の学校行事を開催している。コロナ禍では学校行事、ボランティア活動、地域の老人会との交流会、近隣の高校生の学校訪問など制限していたが、令和5年5月以降は状況を注視し再開している。

＜学校名、学校長名、所在地＞

学校名 中部地区医師会立 ぐしかわ看護専門学校

学校長 高良 武博

所在地 沖縄県うるま市昆布長尾原1832-1

連絡先 TEL 098-972-4600 FAX 098-972-4610

<学校の沿革>

平成 19 年 12 月	九州厚生局より「看護師養成所」の指定を受ける
平成 20 年 1 月	第 1 回推薦・社会人推薦入学試験、一般入学試験（前期）実施
平成 20 年 3 月	一般入学試験（後期）実施
平成 20 年 3 月	学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号第 130 条第 1 項）による学校設置の認可
平成 20 年 4 月	中部地区医師会立ぐしかわ看護専門学校開校 第 1 回入学式看護学科 80 名
平成 21 年 2 月	看護師養成所の学則（教育課程）、実習施設の変更承認通知交付を受ける
平成 21 年 4 月	第 2 代学校長に波川明美、副学校長川平稔就任
平成 22 年 4 月	第 3 代副学校長に仲田清剛就任
平成 23 年 3 月	第 1 回卒業式 看護学科 75 名
平成 25 年 4 月	第 3 代学校長に荻堂志那子就任
平成 27 年 4 月	第 4 代学校長に徳森朝子就任
平成 28 年 1 月	看護師養成所の校舎の各室の使用用途及び面積の変更が承認
平成 28 年 10 月	看護師養成所の学則（賞罰に関する条項）の変更が承認
平成 29 年 4 月	第 4 代副学校長に大城直人就任
平成 29 年 6 月	学校評価委員会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の発足
平成 30 年 1 月	厚生労働大臣より専門実践教育訓練講座（看護学科）の再指定を受ける 実習病院と学校の病学連携に関する協定書締結
令和 1 年 11 月	看護師等養成所指導調査 受審
令和 2 年 2 月	放送大学との連携協力に関する覚書締結
令和 2 年 3 月	第 10 回卒業式中止（新型コロナウイルス感染拡大防止）看護学科 92 名
令和 2 年 4 月	文部科学大臣より職業実践専門課程の認定を受ける
令和 2 年 5 月	緊急事態宣言を受け休校措置としてオンラインによる授業開始
令和 2 年 10 月	厚生労働省カリキュラム改正に向け「看護基礎教育検討会」報告書の公表
令和 2 年 7 月	第 1 回カリキュラム検討委員会開催
令和 2 年 8 月	九州・沖縄ブロックカリキュラム研修会開催（29・30 日）
令和 2 年 10 月	「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインについて」の一部改正の通知
令和 3 年 3 月	実習病院と学校の病学連携に関する協定書締結
令和 3 年 7 月	沖縄県保健医療総務部へぐしかわ看護専門学校教育課程変更申請提出
令和 4 年 1 月	沖縄県保健医療総務部へぐしかわ看護専門学校教育課程変更申請最終提出
令和 4 年 2 月	厚生労働大臣より専門実践教育訓練講座（看護学科）の再指定承認
令和 4 年 3 月	第 12 回卒業式 看護学科 78 名
令和 4 年 3 月	看護師養成所の学則（教育課程）変更の承認 看護学科 3 年課程 単位数 99 単位から 102 単位へ変更
令和 4 年 7 月	新カリキュラム新設科目の地域・在宅看護論実習 I 開始
令和 4 年 8 月	新カリキュラム基礎看護学実習 I 開始
令和 4 年 8 月	厚生労働大臣より専門実践教育訓練講座（看護学科）の指定承認
令和 4 年 9 月	看護師養成所の実習施設の変更承認
令和 5 年 3 月	第 13 回卒業式 看護学科 83 名
令和 5 年 11 月	沖縄県保健医療総務課による看護師養成所指導調査の実施
令和 6 年 1 月	沖縄県保健医療総務課へ看護師養成所指導調査の改善計画書の提出
令和 6 年 3 月	第 14 回卒業式 看護学科 78 名
令和 6 年 4 月	第 5 代学校長に高良武博就任

2. 学科の教育

<定員数>

【看護学科 3年制】 1学年 80名 定員 240名

<カリキュラム>

教育内容		科目	単位	学年			教育内容		科目	単位	学年		
				1年	2年	3年					1年	2年	3年
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考法	1		○		健康状態別看護 (領域横断)	健康支援と看護	1		○		
		情報科学	1	○				薬物療法と看護	1		○		
		情報リテラシー	1	○				周手術期と看護	1		○		
		教育学	1	○				終末期と看護	1		○		
	人間と生活と社会の理解	コミュニケーション論	1	○				臨床判断と看護	1			○	
		生命と倫理学	1	○				小計	5				
		文化人類学	1	○			成人看護学	成人看護学概論	1	○			
		生活環境論	1	○				成人看護学方法論Ⅰ	1		○		
		社会学	1	○				成人看護学方法論Ⅱ	1		○		
		心理学	1	○				成人看護学方法論Ⅲ	1		○		
		人間関係論	1	○			成人看護学方法論Ⅳ	1		○			
	臨床英語	2		○		老年看護学	老年看護学概論	1	○				
	リラクゼーション	1		○			老年看護学方法論Ⅰ	1		○			
				14									
専門基礎分野	人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	1	○		専門分野	小児看護学	小児看護学概論	1	○			
		形態機能学Ⅱ	1	○					小児看護学方法論Ⅰ	1		○	
		形態機能学Ⅲ	1	○					小児看護学方法論Ⅱ	1		○	
		形態機能学Ⅳ	1	○			母性看護学	母性看護学概論	1	○			
		生化学	1	○					母性看護学方法論Ⅰ	1		○	
		栄養と健康	1	○					母性看護学方法論Ⅱ	1		○	
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1	○			精神看護学	精神看護学概論	1	○			
		病理学	1	○					精神看護学方法論Ⅰ	1		○	
		病態生理学Ⅰ	2	○					精神看護学方法論Ⅱ	1		○	
		病態生理学Ⅱ	1	○			小計			17			
		病態生理学Ⅲ	1	○			看護の統合と実践	看護活動と管理	1			○	
		病態生理学Ⅳ	1		○				医療安全	1			○
		病態生理学Ⅴ	2		○				災害看護・国際看護	1			○
	薬理学	1	○					看護技術の統合	1			○	
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	1		○		小計			4			
		社会福祉	1		○		小計			43			
		社会保障	2		○		総講義 単位			79			
看護関係法令		1		○									
現代医療論		1	○										
			22										
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	○		専門分野	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	○			
		基礎看護学方法論Ⅰ	1	○					基礎看護学実習Ⅱ	1	○		
		基礎看護学方法論Ⅱ	1	○					基礎看護学実習Ⅲ	2		○	
		基礎看護学方法論Ⅲ	1	○			地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	○			
		基礎看護学方法論Ⅳ	1	○					地域・在宅看護論実習Ⅱ	1		○	
		基礎看護学方法論Ⅴ	2	○					地域・在宅看護論実習Ⅲ	2		○	
		基礎看護学方法論Ⅵ	1	○			成人・老年看護学	成人・老年看護学実習Ⅰ	3		○		
		基礎看護学方法論Ⅶ	2		○				成人・老年看護学実習Ⅱ	2		○	
		基礎看護学方法論Ⅷ	1					○	成人・老年看護学実習Ⅲ	2		○	
				11			小児看護学	小児看護学実習	2		○		
	地域・在宅看護論	在宅看護概論	1	○			母性看護学	母性看護学実習	2		○		
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	○			精神看護学	精神看護学実習	2		○		
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	1		○		看護の統合と実践	看護の統合と実践実習	2		○		
		地域・在宅看護方法論Ⅲ	2		○		小計			23			
地域・在宅看護方法論Ⅳ		1			○	総合計			102				
			6										

○ 該当学年

(年間計画)

前期 4月～9月

1年生	地域・在宅看護実習 I	7月
1年生	基礎看護学実習 I	8月
2年生	基礎看護学実習 III	5月
3年生	領域実習	5月～7月
	事例研究発表	8月

後期 10月～3月

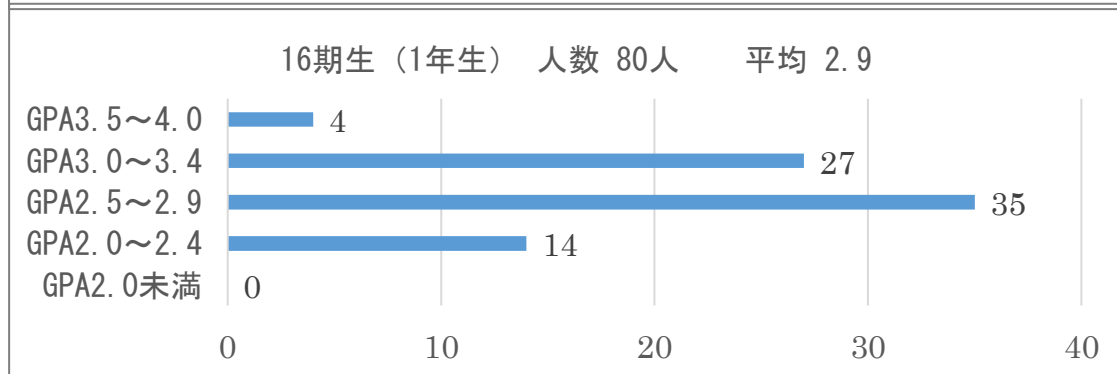
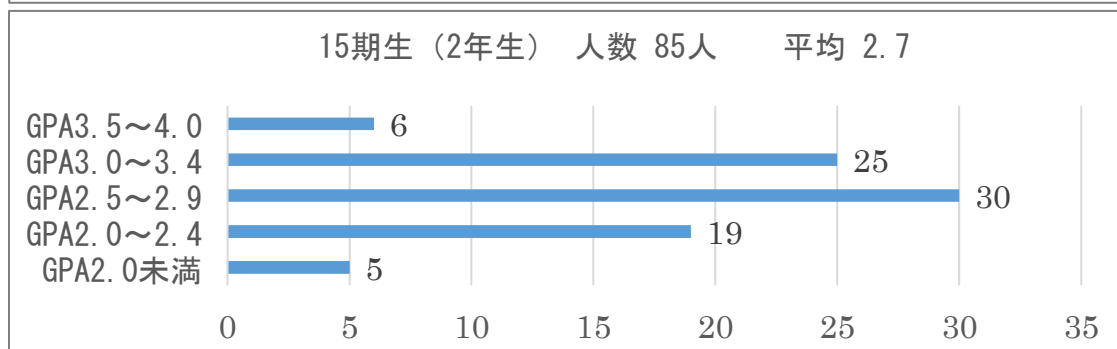
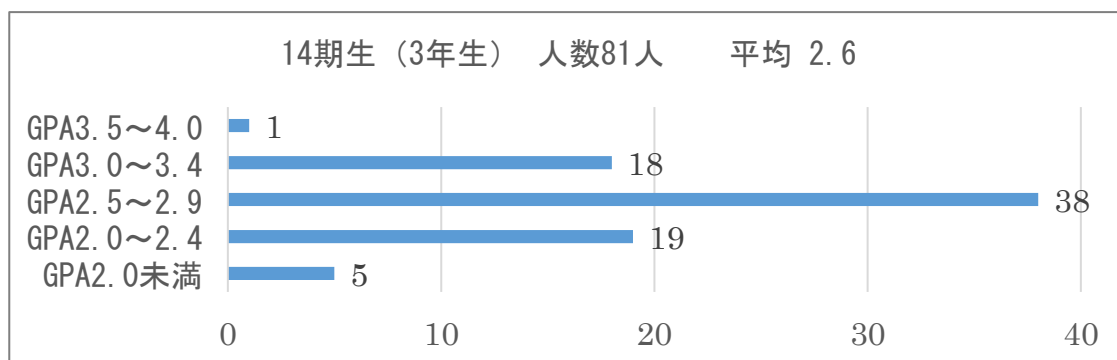
1年生	基礎看護学実習 II	12月
3年生	領域実習	9月～10月
3年生	看護の統合と実践実習	11月
2年生	地域・在宅看護実習 I	1月～2月
2年生	成人・老年看護学実習 I	1月～2月
3年生	看護技術の統合 (OSCE)	12月

(進級・卒業の要件及び評価基準)

評価基準：筆記試験、実習評価は、優、良、可、不可の成績評価を行い、可以上を合格とする。

卒業・進級基準：所定の授業科目の単位の認定を受けた者について、会議の議を経て認定とする。

(GPA数値の分布状況) 単位：人



### 3. 教職員 <教職員数>

- ・学校長 1名
- ・教務部長 1名
- ・事務部長 1名
- ・実習調整者 1名
- ・教育主任 1名
- ・専任教員 15名
- ・実習指導教員 2名
- ・事務職員 6名

### 4. キャリア教育・実践的職業教育

#### <実習への取り組み>

2023年度

授業科目名	時間数	単位	年次	実施期間
地域・在宅看護論実習（新カリ）	45時間	1単位	1年次	7月
基礎看護学実習Ⅰ（新カリ）	45時間	1単位	1年次	8月
基礎看護学実習Ⅱ（新カリ）	45時間	1単位	1年次	12月
基礎看護学実習Ⅲ（新カリ）	90時間	2単位	2年次	5月
成人・老年看護学実習Ⅰ（新カリ）	135時間	3単位	2年次	2024年1月～2月
地域・在宅看護論実習Ⅱ（新カリ）	45時間	1単位		
成人看護学実習Ⅱ	90時間	2単位	3年次	前期 5月～8月
老年看護学実習Ⅱ	90時間	2単位		
小児看護学実習	90時間	2単位		
母性看護学実習	90時間	2単位		
精神看護学実習	90時間	2単位		後期 9月～11月
在宅看護論実習	90時間	2単位		
看護の統合と実践実習	90時間	2単位		
<p>&lt;実習の目的&gt;</p> <p>学校で学んだ知識と技術を活用し、あらゆる健康段階にある対象に応じて科学的根拠に基づく看護実践を行うための基礎的能力を養っていく。また、実習時間を有効に活用し、チームの一員としての役割と責任を理解し行動できるよう効果的な実習を目指す。</p>				
<p>&lt;実習施設との連携の基本方針&gt;</p> <p>学校で学んだ知識・技術の実践として、臨地実習を配置していることから、学校と臨床現場の相互の理解の基に臨地実習が可能な施設を選定している。</p>				
<p>&lt;実習施設との連携内容&gt;</p> <p>実習指導体制として</p> <p>①学内における実習指導・・・担当教員が指導を行う。</p> <p>②配属先における実習指導・・・承諾いただいた実習施設の指導担当者指導者および担当教員が指導を行う。</p>				
<p>&lt;学修成果の評価&gt;</p> <p>評価の方法としては、①担当指導教員からの評価 ②実習先実習指導者からの評価 ③自己評価 以上の3つの内容から総合的に勘案して、4段階で最終的な評価を行う。</p>				

＜実習・演習等の計画＞		
日程	実習・演習等の内容	実習場所
1日目	オリエンテーション 受持ち患者の選定、情報収集	当該実習施設
2～4日目	情報収集、看護問題の明確化 看護計画の計画立案、実施、評価	当該実習施設
5～8日目	ケースカンファレンス 看護問題および看護問題の優先順位の修正 社会資源の理解および情報提供 中間のふり返り	当該実習施設 学内
9～11日	実施した計画の評価 施設の他職種との協働・連携の見学 実習関連部署の実習（外来部門・地域連携室・集中治療室他） *実習の展開は、領域の特徴から日程の変更がある。	当該実習施設
12日目	ふり返り・学習のまとめ	学内
連携する 実習施設	中頭病院　ちゅうざん病院　中部徳洲会病院　ハートライフ病院 沖縄病院　沖縄中央病院　県立南部医療センター・こども医療センター 県立中部病院　うえむら病院　新垣病院　中部協同病院 中部地区医師会成人病検診センター　中部地区医師会訪問看護ステーション 介護老人保健施設おきなわ徳洲苑　うるま市地域包括支援センター すくすく保育園　他　総数 87 施設	

＊臨地実習

コロナ禍では実習施設受入れの制限もあったが、令和5年5月以降の5類移行に伴い、感染防止対策を遵守しながら、通常の臨地実習に近い展開ができた。また、学内実習においても、コロナ禍での取り組みを活かし、ICTを活用した創意工夫したシミュレーション教育を取り入れ、看護実践能力の育成も図れた。

＜就職支援への取り組み＞

県内医療施設の就職説明会の開催、県内外医療施設の求人案内の閲覧する就職・進学関連資料室の設置、就職相談等学生支援室の設置等を行い、就職・進学をサポートしている。また、履歴書作成から面接の練習や小論文対策迄個別指導も実施している。進学希望者の支援は、受験の心構え、受験対策など、県内進学した卒業生との交流の機会を設けている。

5. さまざまな教育活動・教育環境

＜学校行事＞

- ・ホームページに掲載あり

＜課外活動＞

- ・学生会活動
- ・学校行事に関する各実行委員会活動
- ・ボランティア活動

掲示されたボランティア募集を学生自身が申込み、医療施設などの防災訓練に積極的に参加し活動している。

## 6. 学生の生活支援

### <学生への支援状況>

各学年に3名の担当教員がいることで、学生個別の面談の計画的実施で、学習指導や生活面の悩みも気軽に直接、メールで相談でき、きめ細かい個別対応ができる。また、スクールカウンセラーによるカウンセリング、保護者との連携・協力体制の構築を行い、学生の成長を支援している。スクールカウンセラーは、相談者から直接メールを受けることができ、相談者と日程調整を行い、対面、電話相談を行っている。

令和6年度は、キャリアコンサルトの国家資格を持つ元教員によるキャリア支援室を開設する予定である。

## 7. 学生納付金・修学支援

### <学費について>

1年次	入学金 300,000 円、授業料 450,000	施設維持費 200,000 円、実習実験費 100,000 円
2年次	— 授業料 450,000	施設維持費 200,000 円、実習実験費 100,000 円
3年次	— 授業料 450,000	施設維持費 200,000 円、実習実験費 100,000 円

\*上記の納付金のほかに諸経費とし教科書代、実習着代、学生損害保険料、学生会費、後援会費などは別途実費負担です。

### <修学支援について>

- ・日本学生支援機構奨学金制度
- ・沖縄県看護師修学資金
- ・中部地区医師会奨学金：年間を通して学業に励み、人物・成績ともに他の学生の模範となる優秀な学生に対し、学納金の一部を免除します。

## 8. 学校の財務

下記アドレスにて(ぐしかわ看護専門学校ホームページ)情報公開

<https://www.gushikawa-ns.ac.jp/information.php>

## 9. 学校評価

<自己点検・自己評価結果・学校関係者評価結果>

下記アドレスにて(ぐしかわ看護専門学校ホームページ)情報公開

<https://www.gushikawa-ns.ac.jp/information.php>